



3年

9月号

9月17日

学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思ひます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合つてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思ひます。
よろしくお願ひいたします。

★資料名

「ぬれた本」

★今回の道徳の授業のねらい

正直に真心を持って行動し、明るく生活しようとする心情を育てます。

★お話のあらすじ

アメリカ大統領、リンカーンの少年時代の逸話です。少年リンカーンは、借りた本を不注意からぬらしてしまい、どうしたらよいか思案に暮れます。正直に話して謝り、その気持ちを示すために3日間働きます。この誠意ある行動に対して本の持ち主は、その本をくれたという内容です。

正直に真心をもって行動し、誠実に生きると明るい気持ちになれるものです。そのことを子供たちに気づかせる教材です。

★子どもたちの授業の振り返り

☆リンカーンはちゃんとおじさんに、雨でぬれてしまったわけを話すことができると思ひました。ぼくだったら話せないと思ひから、勇気があるなあと思ひました。

☆働かなくてもいいと言われたらその言葉通りに受け取ると思ひます。初めに決めた3日働くんじゃなくて2日だけにするとか、考えると思ひます。

☆リンカーンは一度決めたことを最後までやりぬきました。正直に行動すると、自分も相手もすっきりするんだなと思ひました。そして、その真面目で正直な姿を、おじさんは見ていてくれたから、大事な本をくれたんだと思ひます。

☆「心のものさし」を使ってみんなで話し合ひました。いろいろな意見が出ておもしろかったです。

☆嘘をついたことをそのままにしていたら、とてももやもやした気持ちになりました。正直に行動するとすっきりして、いいことがいっぱいあるんだなと思ひました。

★家庭で話し合つてほしいこと

ご家庭ではぜひ、次の2つのことについてお願ひしたいと思ひます。

1つめはモデルの提示です。さまざまなモデルを話題にして話し合つてください。誠実に生きるすばらしさが伝わってくるお話を読み聞かせることもよい方法です。生き方のモデルとして感化され、育つていくものがあるはずです。

2つめは、お子さんが、正直に真心のこもった行動がとれたときにはたくさん褒めてあげてほしいということです。大人が自分の行動に価値づけしてくれることで、それは次につながる貴重な体験となるはずです。